



▲撮影：平成24年度市民カメラン 加藤秀雄さん

▼撮影：平成24年度市民カメラン 吉井勝美さん

▲撮影：平成24年度市民カメラン 穴戸良之さん



**仕事も祭りも全力投球！  
今年は特に感謝の気持ちを含めて踊りました**

福島市の地域医療を担う病院の一つ福島赤十字病院に看護師として勤務している渡邊あゆみさんは、病院チームの一員として祭りに参加しています。「きつかけは、地域貢献の

一助になればという思いからでした」チームワークで一つのことを成し遂げるといふ点で祭りは日々の仕事と共通しています。部署や職種を越えて人のつながりが深くなったり、元気を届けるつもりが沿道からの声援に元気をもらったたり、毎回得るものがたくさんあるそうです。

「特に今年は、昨年震災で救護活動をしている時に、被災された皆さんに掛けていただいた『ありがとう。頑張つて！』という声忘れられず、私も『元気』と『感謝』を届けたいと思って踊りました」沿道の歓声と一体となって2時間踊り通した後の達成感と爽快感も祭りの魅力。「みんなで喜びを分かち合いながら、やっぱり私たちは福島っ子なんだと実感しました」

後日、職場を訪ねると、普段どおり命と向き合い、支える仕事に励んでいました。「わらじまつりでリフレッシュしてパワーをもらいました。ますます仕事を頑張れます。来年の夏も仲間と一緒にはじけます」と、仕事も祭りも全力投球する渡邊さんらしい言葉。その笑顔は、とても爽やかでした。

**祭りは、家族の絆を深める日  
体力の続く限り踊り続けます**

結婚後、4人のお子さんに恵まれた阿部由美子さん。「三河台まつり愛好会」に入会したのは、今から7年前。引つ込み思案だったお嬢さんのために、心から何かを楽しむ経験をさせたいと思ったのがきっかけだったそうです。その後、大人も子どもも一つになって踊る喜びを知ったお嬢さんは、ダンスサークルのキャプテンを務めるほどに。そして阿部さんも「気が付くと勧めた私自身が夢中になっていました。福島市のメインストリートで繰り広げられる踊りは壮大。仕事とも家庭とも違う非日常的な空間で、自分を表現するって最高！」いつしか家族全員で参加するようになり、昨年からはお孫さんも含めて三世代で「わらじまつり」に参加している阿部さんご一家。

「毎年アウトドアで家族の絆を深めてきた私にとって、今では家族で祭りに夢中になることが大切な一日。次男も東京から帰省して参加しているの、体力の続く限り踊り続けたいと思っています。踊っている



▲鳴子を手に踊る渡邊さん



福島赤十字病院  
手術室看護係長  
渡邊あゆみさん



◀お孫さん、息子さんと一緒に元気に踊る阿部さん



▲家族や愛好会の仲間と共に



三河台まつり愛好会  
阿部由美子さん



◀病院チーム一体となって踊りました